

## 鬼北俳句会

駅前看板春を告げる旅  
 スカーフのさらり解けし四温かな  
 組み上げて火のかけのぼるどんだかな  
 雪の夜静寂に発条時計かな  
 雪景色湯気のただよふ湖面かな  
 雪景色遠きも近きも日に消へし  
 水仙の根締正しく老舗かな  
 床の間の布袋の糸目春立ちぬ  
 追ひかけてくる老いの風梅二月  
 追儼豆まきて独りの夜となりぬ  
 冬天に石垣仰ぐ岡城趾  
 絵馬一つ神にあずけし寒詣  
 片思ひ口では言えず星冴ゆる  
 町名の変る古里初便り  
 戦ひは机上にありて大試験

大川 眺春  
 毛利 知子  
 善家 信景  
 善家 三代  
 善家 章  
 今西 英子  
 武田 幸子  
 二宮千代子  
 二宮 友子  
 高田トヨ子  
 松岡 寛孝  
 新倉地映子  
 芝 光恭  
 白敷フサ子  
 上甲 斗志

## きほく川柳会

さて今日は何日だっけ惚けはじめ  
 日が暮れると猪口かんびんが落ち着かぬ  
 人間も神も仏も餅が好き  
 山菜の料理で招く山の宿  
 一行の中に隠している本音  
 新米のミス先輩も踏んだ道  
 こっそりとのぞいてみたい穴がある  
 雪の日は炬燵であくび痴呆けはじめ  
 四面楚歌途方に暮れる神だのみ  
 知らん顔こっそり食べるひがし芋  
 友が来た飲みに来ました泣きに来た  
 真心を込めた料理は生きている  
 踏んばって生きた証の足の裏  
 猫が好き中途半端の男より  
 七十年も生きて大人になり切れぬ  
 とつぷりと暮れて茶の間にいい笑顔

宇都宮七郎  
 宇都宮 孝  
 大沢和希子  
 大野モモエ  
 大本ミヤ子  
 栗木 一郎  
 小越 安隆  
 芝 智恵子  
 清家 厚美  
 武田 浅美  
 若宮 賢敬  
 畠山 千歳  
 兵頭 紀子  
 水野 貞子  
 都 瞳  
 高田トヨ子



## 大きくなったら 泉小学校

